

熊野川懇談会
第2回 グループ会議（環境分野）

会議資料 1

熊野川流域の課題および意見の整理
（環境分野）

流域の課題に対する意見

〔個別意見集〕

＜自然環境の課題と課題に対する意見＞

①今後整備計画策定にあたり参考にさせていただき意見 ②今後取扱方のご相談が必要な意見

項目	課題	課題に対する意見		提出委員 (敬称略)	取扱	
		方向性等	具体例・対応策		①	②
水量・水質	濁水の長期化問題	濁水の長期化については、具体的な改善の方策を探る必要があるのではないか。		高須委員	○	○
	濁水長期化への対応 (治水・利水分野より)	濁水の長期化の対策としての水質汚濁防止連絡協議会については、濁水全体としてみるようなシステムを連携して、考えていく必要がある。 ダム運用方法（選択水取水、洪水時に一度に濁水を放流、上流の濁度が下流に流下し、ダムを通過することの濁度変化について把握できていない。）の違いによって、濁水が軽減されたか判らない。 濁度についてのデータを公表すべきであり、そのデータに基づく対策が重要である。		井伊委員	○	
		選択取水施設は効果的であるが、濁水長期化問題に対して、濁水部分が大きすぎる場合、それだけでは限界があると見られる。 出水時そしてその後1週間ほどの間に出水時の濁水を、運用によりできるだけ多く排出する工夫が続けられることが必要である。		吉野委員	○	
		濁水対策の基本は、流域からの土砂の流入を防ぐことであり、山林保全が最も有効な手段と考えられる。 林野側が行っている山林保全事業を拡充し、ダム湖への土砂の流入を防ぐことを目的および手段上優先することが望ましく、ダム、河川、治山、環境保全側も山林保全事業に参画し、資金的にも応分の協力をする方式が考えられないか？ 新たな制度を作らずとも、協議会方式で、実行ベースで工夫し実現することも可能ではないか？		吉野委員		○
	流域における家庭排水処理の推進 (大腸菌対策)	水質問題としては、川遊びおよび熊野川のイメージの点から、大腸菌を減少させることが望ましい。	○流域における家庭排水処理を推進することが望まれる。	吉野委員	○	
		大腸菌に関してはとりまとめの中に意見を盛り込む必要がある。		高須委員	○	
		大腸菌が多いとの事について、下流域に生活する私達がまず気を付けなければならない。		清岡委員	○	
市田川の水質改善	市田川の水質については、本川からの導水により、かなり改善されている。 下水道の整備が望まれる。それまでは市民一人一人が水質浄化に取り組む必要がある。		瀧野委員	○	○	
流砂環境（流砂と河川形状）	熊野川における望ましい流砂環境	熊野川における望ましい流砂環境の理念の構築		江頭委員長	○	
	流砂環境の評価と復元	・現在の流砂環境の評価（上流、貯水池、下流、河口・海岸） ・上流域対策・・・流域全体を視野に入れた土砂流出の抑制 ・貯水池対策・・・従来の対策に加えて新しい対策の可能性は ・下流域対策・・・川の道、観光舟運等の河川の利用を維持しつつ、河川の自然的機能を発揮し、治水上の課題を阻害しないような河川の縦横断形状（河床形状の管理）と流砂の移動性の維持管理は ・河口部・海岸対策・・・自然の営力による対策の可能性は		江頭委員長	○	
生態系（水循環・物質循環、生物）	良好な自然環境の保全	直轄区間に関わらずバックグラウンドとしての森林、特に人工林の管理不足に伴う荒廃が大きなポイントになると思われる。	○山地崩壊・崩落箇所のデータ解析とともに人工林の状況解析を行う必要がある。	高須委員	○	○
	流域の生息生物保全・外来魚対策	生息している生物（植物・魚類）の全体像を把握する必要がある。 ・植物・・・熊野川流域の自然環境そのものを反映 流域は熊野地方の固有種や、植物相が極めて豊富な地域である。 河川水辺の国勢調査は直轄区間のみであるため、十分とはいえない。 ・魚類・・・熊野川の水質・河川形態等を反映 河川水辺の国勢調査などによって、60種程の生息が確認されている。 ハゼ科の魚類がコイ科の魚類に比べて多いことや、生活型では川と海を行き来する回遊魚の占める割合が高い、などの特徴がある。		瀧野委員	○	
		生息生物の保全やダムによる生息生物への影響、外来魚問題に関しては、データ不足である。 絶滅危惧種が生息・生育することは記録されているが、それがどのような生態を持ち、現在どのような状況下にあるのかといった具体的なデータはほとんどない。 従って、保全のための意見や提案を行うことはほとんど不可能である。	○できるだけ現状を変えないようにということ。 ○個体数や繁殖生態などに関する基礎的な調査が早急に必要だ。 ○ダム湖に関わっては、先進検討も相当あるのではないかと。 ○先行事例・先行研究例を見直し学習することで、熊野川に生かせることもあるようにおもわれる。	高須委員	○	
		ダム湖に放流されていたオオクチバスが下流域で確認され、繁殖していると思われる。 オオクチバスは塩分に対する耐性も強いとされ、河口部で繁殖し始めると、魚類の稚魚や底生生物を捕食し、多大な影響を及ぼすおそれがある。	○早急に駆除のための対策が必要である。 ○ダムから流下させない対策が必要である。	瀧野委員	○	
	多自然川づくり	自然はまさに多様・多自然である。 それぞれの現場にあった「多自然」のイメージをいかに構築するかが重要である。	○継続的なモニタリングによる検証を行ってゆくことが今後の「多自然川づくり」をより良いものとしてゆくために必要である。	高須委員	○	
		○谷の堰堤には、魚の遡る道、その他動植物の生態を研究し、それらの動植物を生かすことの配慮が必要である。	浦木委員	○		
相野谷川の堆積土砂対策	相野谷川では河床に砂泥が大量に堆積し、さらにツルヨシが繁茂して流れが妨げられている状態である。 ワンドが形成され、オオクチバスの稚魚も捕獲された。	○ツルヨシと堆積した砂泥の除去対策が望まれる。	瀧野委員	○		

<地域振興の課題と課題に対する意見>

①今後整備計画策定にあたり参考にさせていただき意見 ②今後取扱方のご相談が必要な意見

項目	課題	課題に対する意見		提出委員 (敬称略)	取扱	
		方向性等	具体例・対応策		①	②
地域振興	リバーツーリズム（熊野川の観光資源としての魅力の向上）	河川は、国内および海外の事例からも観光資源として有効。小中学生等の体験学習の場として河川への関心は高い。しかし、現状は観光資源として十分活用されていない。	①川の「参詣道」、川の「熊野古道」としての位置付けを明確にし、それにふさわしい舟による参詣コースを開発する ②川の「参詣道」にふさわしい景観を形成する ③小中学生等を主対象にした川を拠点にした体験学習・観光の開発（熊野の歴史・文化や自然学習と結合） ④流域にリバーツーリズムの拠点として「川の駅」を設置	橋本委員		○
		観光産業の振興は、流域住民の熊野川に関心を寄せ、親しんでいく大きなモチベーションとなるのではないか。	○大斎原からの川舟下りや熊野速玉大社からの奥瀬就航など、観光産業の振興を進めていく必要があるのではないか。	古田委員		○
			○「川で遊ぼう・山で遊ぼう」をテーマに流域全体で、地域の持つ教育力を十分に活かし、子供たちが自然の中で自由な発想で遊べる施設や環境を整備するべきである。	津田委員		○
	棚田の活用と不耕作地の解消	流域の水田はほとんど棚田であるが活用されず、放置・放棄されてきている。これを放置すると土砂災害の多発、激化を引き起こす。	①流域の出来るところから棚田オーナー制の実施 ②ターン、Uターンの活用 ③棚田での栽培→これらを使った加工食品等の開発	橋本委員		○
	林業振興	流域の人工林も戦後拡大造林が進み、近々、伐期を迎えようとしているが、間伐の遅れが著しく、また、皆伐地の放置がいたるところに見受けられる。流域の人工林では、搬出コストの削減が困難であったが、近年は、高性能林業機械の導入が普及し作業の効率化が図られるようになっている。路網整備、機械化、搬出コストの削減、間伐の促進、間伐材の利用対策に対し、適切な助成措置、省庁横断的な森林、林業施策を講じてほしい。奈良県では、本年度より県独自の森林環境税が徴収され、森林整備等に使われることになった。初年度となる本年は、古道周辺の荒廃した人工林の間伐を優先的に採択して、事業を実施している。適切な撫育がなされた人工林こそが熊野古道の歴史的景観である。	○流域の歴史、文化、景観を守り、受け継いでいくためには、森林環境税等の特定財源の創設を期待する。 ○流域の関係市町村、並びに地域住民による広域的な施策の企画、立案組織が作れないか。	津田委員		○
		林業をとりまく厳しい状況ではあるが、わが国の森林と林業を守る意義はますます高まっている。	①林業を環境産業に（木材だけでなく森林の役割・機能すべてを活用する） ②山村ファンを増やし確保する ③「緑の雇用事業」等の拡充	橋本委員		○
			○土砂のダム湖への流入防止に特に効果ある事業については、河川、ダム側が資金面等で支援することが望ましい。	吉野委員		○
	観光産業クラスター（観光関連産業の連携と核の設置）	流域には多くの観光資源や施設があり、観光関連の業種も少なくないが、個別分散の状態であり、観光資源や施設が活かされない。	①観光関連の業種および地域の交流・連携の推進 ②交流・連携の核としての「熊野川観光ビューロー」（仮称）の設置 ③観光関連産業が相互に連携し、観光に関する知識、情報、人材等の集積とその結果としての集積利益を享受できる観光産業クラスターの形成	橋本委員		○
		広域観光開発を目的にしつつ、地区ごとに住民グループを結成し、地区ごとの伝統文化、伝統食品、伝承、演芸等を発掘、保存、さらには改良して紹介できるようにすることが望まれる。	○左記の地区毎の住民グループを核にネットワークを組織し、広域連携を進めるとともに、その機能を特産品開発、販売等地域振興にも広げることが望ましい。	吉野委員		○
		中下流全域を統合した観光コースを連携して設定し、紹介することが望ましい。	①様々な川の利用方法 ②様々なタイプの温泉の楽しみ方 ③様々な熊野古道の歩き方 ④様々な熊野の宗教的文化を学ぶ	吉野委員	○	○
流域ネットワークの形成	現状は流域のネットワークは弱体・希薄。川上・川中・川下の交流・連携および熊野川ファン（流域外部の応援団）の交流が極めて重要。	①流域ネットワークの形成 ②その下準備としての熊野川フォーラムや流域全体を巻き込んだ「熊野川フェスティバル」等の開催	橋本委員	○	○	
高齢者の活用	流域における高齢化は顕著であり、くい止めることは至難。高齢者を活かし、次の世代に繋ぐ対策が必要。	①地域の歴史・文化だけでなく、地域の魅力全体を語る「語り部」等としての活用 ②地域の生活技術や芸能の体現者としての活用 ③「川の駅」等で高齢者の生産した野菜や加工品、土産物の販売	橋本委員		○	

<歴史・文化の課題と課題に対する意見>

①今後整備計画策定にあたり参考にさせていただき意見 ②今後取扱方のご相談が必要な意見

項目	課題	課題に対する意見		担当 (敬称略)	取扱		
		方向性等	具体例・対応策		①	②	
歴史文化	豊かな歴史、文化にふさわしい川づくり	① 新規のハード整備への提言 コストや強度など技術的な問題もあると思うが、豊かな歴史文化をふまえた世界遺産の川にふさわしい、材質・形状・色彩・伝統的な施工技術を尊重した工事であってほしい。 ② 流域の自然林の復活 日本一の流量を誇る熊野川ながら、豊かな自然林が美しい清水を育ててきた。その自然景観に支えられて、人々は長い歴史の中で「神々の風景」ともいえる見事な文化的景観を生成してきたのである。	②少なくとも世界遺産にはじない川沿いの自然林の再生が望まれる。	山本委員		○	
	歴史・文化の継承		①啓発冊子の発行 熊野川の歴史・文化の魅力をまとめた冊子を発行し、悠久の熊野川の住民理解に資する。 ②伝統文化を語る座談会の開催 川舟製作や操作、筏師の技術や伝承、川漁師の漁法など、川で生活してきた人々の体験や知恵を開き、川の民俗伝承の大切さを理解してもらおう。 ③語り部の養成 川舟にかぎらず、幅広く川の歴史と民俗を語り継いでいくボランティアを募り、養成講座を行う。 特に高校生・中学生・子供の語り部養成も意義深いと思う。 ④熊野川講演会の実施 熊野川の歴史・文化のもつ意義と魅力を発信すべく、定期的に有識者を招き講演会を開く。		山本委員	○	○
				○ちびっ子の語り部の養成、	神坂委員		○
	熊野川の歴史・文化の発掘と調査		①熊野川の歴史の変遷の調査 悠久の熊野川の歴史の流れを大別し、それぞれの時代の特徴を跡づける調査・研究の進展が望まれる。 A 古代～ 熊野神の顕現・交流の舞台 B 中世～ “川の参詣道”の大動脈 C 近世～ 物流・交易の交通路（海上交通の門戸） D 近代～ 観光・遊覧の集客ルート ②熊野川に関する伝承文化の調査 日常生活のなかで伝えてきた熊野川の民俗を、次のような調査を通じて、熊野川の民俗伝承の特徴をあらぶり出していくことが必要。 A 流域の生活文化（衣・食・住、家・村社会） B 流域の年中行事（七夕・精霊送り・スズキ追いなど） C 民間信仰（水神・波切不動・禁忌など） D 生業とくらし（川漁業・川舟・筏など） E 民間伝承（庶民の逸話・伝説） ③「熊野川の歴史と民俗」（仮称）の刊行 ①②の調査をふまえ、見出しのような報告書を刊行し、今後のよりよい川づくりのための基層文化の把握と理解を求める		山本委員	○	○
				○歴史文化の発掘と周知、庶民の歴史の発掘と活用、庶民参加の歴史づくり	神坂委員		○
	歴史・文化資産の保全と復元		①流域交通遺跡の保存と顕彰 世界遺産にふさわしい交通関係遺跡（渡し場、奇岩名所など）を保存し、価値を認識いただけるよう顕彰・PRしていく。 ②歴史的交通路の復活 川舟下り航路を本宮～新宮間となるよう努力する。 熊野参詣道の重要な渡し舟（楊枝・乙基・成川）を復活させ、往来のにぎわいをとりもどす。 ③川舟・筏・プロペラ船の復元 参詣者と流域の重要な交通手段であった川舟（三反帆）、筏、プロペラ船などの復元を行い、熊野川交通の歴史と意義を考え、技術継承に資する。 ④歴史的交通遺構の復元 川原屋、茶屋などを復元し、往時の交通と接待所の歴史・文化を考える		山本委員		○
				○川原屋、舟（三反帆）、プロペラ船の復元	神坂委員		○
				○歴史文化資料館を建設し、旧神宮、川原まち、プロペラ船、材木流し技術等の精緻な模型を展示し、それを用いて、その機能、歴史、当時の生活、エピソード等を学芸員等が説明する体制を整えることが望ましい。	吉野委員		○

< 景観の課題と課題に対する意見 >

①今後整備計画策定にあたり参考にさせていただき意見 ②今後取扱方のご相談が必要な意見

項目	課題	課題に対する意見		担当 (敬称略)	取扱	
		方向性等	具体例・対応策		①	②
景観	流域の景観デザインの統一		○各市町村や県当局と共に環境省〔自然公園地域（国立公園・国定公園）〕林野庁（風致保安林地帯）等と提携し、コンセンサスを統一し、色、形、高さ等の制限をして調和するべきである。 色・形については、自然と調和したものをを用いるとよい。 電柱は、地下に埋設すべきである。	浦木委員		○
	世界遺産指定地域の景観への配慮		○文化遺産とも言うべき神社、仏閣や古い歴史的建物の傍らに立っている建造物や構造物は、地域指定によって、高さ、色、形を規制すべきである。 ○熊野川沿川にあるコンクリート業者の工場や砂利業者の建物は、色や形とも規制し、周囲との調和を図るべきである。 ダムの上堤・水害予防の谷間の小堰堤・山の高圧線の電柱も同様である。	浦木委員	○	
		川沿いの人工施設が景観を損ねている。景観にマッチするよう措置が必要である。（特に、長大な擁壁が目立っていた）		吉野委員	○	
	豊かな歴史、文化にふさわしい川づくり	① 不用工作物の撤去旧巴川製紙取水場、旧本州製紙取水口、御船島近くの揚水場など、不用構造物が目につく ② 川沿い景観のグレードアップを川から見上げると、橋や擁壁・堤防などの人工物が景観イメージを低下させている。	①早期撤去の指導を。 ②景観をそこなわないような色彩や目かくし、植栽などの工夫が必要である。	山本委員	○	
	自然環境に配慮した堤防整備	コンクリートむき出しの護岸ではなく、自然環境にマッチした工法を取り入れる。		中島委員	○	
	ダムなどの既存構造物の景観整備		○電源開発のダムの堰堤も自然と調和した色彩を用いる。 ○ダムについては、水位の低い時には、植物のまったくないむき出しの山肌が見えるが、これは水陸両用で育つ樹木を見つけ研究して、その植樹と緑を達成すべきである。 ○水害予防の谷間の小堰堤もその工事や設計も周囲の自然の保護とともにその堰堤の形や色を予め設計に取り入れるべきであり、山、谷との調和のとれた設計にすべきである。 ○山の高圧線の電柱の色彩も山林との調和を図るべきである。	浦木委員	○	○
	自然林の保全と復元		○自然天然の樹種に従って補植すべきであり、特に自然林を壊さないよう、皆伐禁止区域を広げるべきである。 ○特に熊野世界遺産地帯を自然保護地帯として伐採を制限すべきである。 ○川沿いの山林や山々の路の補植すべき所は、天然林の樹種を植栽すべきである。	浦木委員		○

< 維持管理の課題と課題に対する意見 >

①今後整備計画策定にあたり参考にさせていただき意見 ②今後取扱方のご相談が必要な意見

項目	課題	課題に対する意見		担当 (敬称略)	取扱	
		方向性等	具体例・対応策		①	②
維持管理	河川構造物の保全と運用		・機能を維持するための整備 ・点検 ・機能の増強等、機能の弾力的な見直し ・緊急時等に機能を発揮するための体制・組織、訓練 （関係住民との連携のあり方）	江頭委員長	○	
	河川の持つ自然的な機能の保全	・水量 ・水質、流砂 ・生物多様性、生息場 ・生物移動の連続性		江頭委員長	○	
	河川景観	・景観の保全・創生 ・修景 ・植生・ゴミ		江頭委員長	○	
	組織・体制づくり		組織、体制、関係住民との連携	江頭委員長	○	
	地域の実情に合う維持管理	市田川水門の両サイドにある樋門ゲートの下は可燃物、不燃物共のゴミが漂着して打上がっていた。この地点から上流は夏、秋草の雑草が枯れはじめて見苦しく年2回の刈込みを実施してもらいたい。		中島委員	○	

熊野川懇談会

流域の課題に対する意見

作成者	浦木 清十郎 委員	課題の分野	環境（景観）
課題			
課題に対する意見			
<p><意見記入欄></p> <p>熊野川とその流域、山、川、滝、渓谷、海、岩礁等素晴らしい自然環境と共に歴史文化の遺産に事欠かない熊野川流域は、全国に稀なる自然と共に歴史文化の殿堂であり、この素晴らしい自然環境と歴史文化を守り役立たせる事が私共の大きな使命である。にも拘わらず、近年の開発は、鉄とコンクリート、又、箱物により、この大切な環境を破壊し、自然との調和を傷つけて行なっている。</p> <p>海岸線に於いても堤防は高く、折角の海の景観が歩道や車道から見えなくなり台無しになって居る所があり、著しく環境との調和を欠いている。又、侵食や土砂の防御のために造られている護岸や堤防、又、不調和な建築物等も熊野川両岸や自然景観の風景を著しく壊している。</p> <p>又、町の歴史や文化（神社仏閣等）に調和しない隣接のアパートその他の不調和な建物や電柱等多くの文化遺産と町の景観を壊し、台無しにしている。</p> <p>これらの不調和をなくし自然や文化を保護し、自然景観や歴史遺産を生かすために次のことを提案します。</p> <p>⇒ <u>流域の景観デザインの統一</u></p> <p>各市町村や県当局と共に環境省〔自然公園地域（国立公園・国定公園）〕林野庁（風致保安林地帯）等と提携し、又、合意を計り、国土交通省の方のご尽力とご指導によってそれらのコンセンサスを統一し、色、形、高さ等の制限をして調和するべきである。又、色については、自然環境地帯では、堤防や堰堤、トンネルの入口や護岸等は、茶色〔濃い茶色・こげ茶色〕に統一するべきである。場所によっては、濃い緑を使用する場所もあってよい。看板表示等も茶色、緑と、うすいベージュの下地に濃い緑や濃い茶色に統一すべきであり、看板や表示の説明文は、黒でもよいが濃い茶色や濃い緑のほうがよい。看板類は、著しく不統一である。歩道や車道のフェンスやガードレールも色、形を統一する。色は茶色がよい。</p> <p>堤防や擁壁等の形は、稍斜めがよい、垂直の場合も天辺は稍斜めにするべきである。又、建物倉庫等も屋根は、斜めにすべきで、箱型は規制すべきである。</p> <p>電柱は、茶色にし、願わくば地下に埋設すべきである。（外国の都市や観光地、先進国では、全て地下に埋められている。）</p> <p>⇒ <u>世界遺産指定地域の景観への配慮</u></p> <p>文化遺産とも言うべき神社、仏閣や古い歴史的建物の傍らに立っている高層住宅や倉庫、ホール等も色は、前述のとおりとし、屋根も同様であり、不調和な高い建物は、地域指定によって、高さ、色、形を規制すべきである。</p> <p>熊野川沿川にあるコンクリート業者の工場や砂利業者の建物は、色や形とも規制し、煙突は茶色、建物はベージュとし、強い指導を行い周囲との調和を図るべきである。</p>			

熊野川懇談会

課題に対する意見（つづき）

<意見記入欄>

⇒ ダムなどの既存構造物の景観整備

電源開発のダムの堰堤も同様である。色は、茶色がよい。電源開発により、周囲の山は、水位の低い時には、植物のまったくないむき出しの山肌が見えるが、これは水陸両用で育つ樹木を見つけ研究して、その植樹と緑を達成すべきである。〔外国には、あるはずである。〕

水害予防の谷間の小堰堤もその工事や設計も周囲の自然の保護とともにその園丁の形や色を予め設計に取り入れるべきであり、色は、緑か茶色、形は、角ばったコンクリートむき出しの色や形を石模様や過度を斜めにして、山、谷との調和のとれた設計にすべきである。

山の高圧線の電柱も色を緑にし、山林との調和を図るべきである。

又、谷の堰堤には、魚の遡る道、その他動植物の生態を研究し、それらの動植物を生かすことの配慮が必要である。

⇒ 自然林の保全と復元

川沿いの山林や山々の路の補植すべき所は、天然林の樹種を植栽すべきである。

川の近くは、柳を、少し上には、椎・檜・楠・栗・モチ・トベラ・モッコク、花木では、椿・山桃・シャラ・モクレン・ハモロ・アケビ・ツツジ等。

川の近くは、柳を、少し上には、椎・檜・楠・栗・モチ・トベラ・モッコク、花木では、椿・山桃・シャラ・モクレン・ハモロ・アケビ・ツツジ等。針葉樹では、樅・榎・槇・カヤ・トガ・サワラ・高野槇・（杉・檜は、人工や植林で多過ぎる程である。）松は、自然に生える。少し山の中腹より上の方になると落葉樹（楓や栎、桜その他）も可。

以上の如く、自然天然の樹種に従って補植すべきであり、特に自然林を壊さないよう、皆伐禁止区域を広げるべきである。特に熊野世界遺産地帯の周辺五百米から千米位迄、（現在は、二百米）自然保護地帯として伐採を制限すべきである。

熊野川懇談会

流域の課題に対する意見

記入者	江頭 進治 委員長	課題の分野	環境
課題	流砂環境		
課題に対する意見			
<p><意見記入欄></p> <p>1. 理念の構築</p> <p>熊野川における望ましい流砂環境とは</p> <p>2. 流砂環境の実態と課題</p> <p>(1) ダム上流域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な土砂移動形態が見られるばかりでなく、出水時の土砂流出が大きい ・土砂災害 ・生物と流砂環境 <p>(2) ダム貯水池</p> <ul style="list-style-type: none"> ・濁水 ・ダム堆砂，ダム堆砂による機能障害 <p>(3) ダム下流域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的には河床は安定しているが，河道の拡幅部など洪水ごとに土砂の堆積あり。 ・土砂の堆積による洪水の氾濫 ・河床材料の粗粒化による土砂移動性の低下（流砂量の減少）・・・物理環境の劣化 ・生物と流砂環境 <p>(4) 河口域・海岸域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸侵食とその原因は ・生物と流砂環境 <p>3. <u>流砂環境の評価と復元（総合的な土砂管理，モニタリング）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の流砂環境の評価（上流，貯水池，下流，河口・海岸） ・上流域対策・・・流域全体を視野に入れた土砂流出の抑制 ・貯水池対策・・・従来の対策に加えて新しい対策の可能性は ・下流域対策・・・川の道，観光舟運等の河川の利用を維持しつつ，河川の自然的機能を発揮し，治水上の課題を阻害しないような河川の縦横断形状（河床形状の管理）と流砂の移動性の維持管理は ・河口部・海岸対策・・・自然の営力による対策の可能性は 			

熊野川懇談会

課 題	河川の維持管理
課題に対する意見（つづき）	
<p><意見記入欄></p> <ol style="list-style-type: none">1. <u>河川構造物（堤防，護岸・水制，水門，樋門など）</u><ul style="list-style-type: none">・機能を維持するための整備・点検・機能の増強等，機能の弾力的な見直し・緊急時等に機能を発揮するための体制・組織，訓練 （関係住民との連携のあり方）2. <u>河川の持つ自然的な機能（水循環，物質循環）</u><ul style="list-style-type: none">・水量・水質，流砂・生物多様性，生息場・生物移動の連続性3. <u>河川景観</u><ul style="list-style-type: none">・景観の保全・創生・修景・植生・ゴミ4. <u>組織・体制づくり</u><ul style="list-style-type: none">1， 2， 3に関する組織，体制，関係住民との連携	

熊野川懇談会

流域の課題に対する意見

記入者	高須 英樹 委員	課題の分野	自然環境
課題			
課題に対する意見			
<p><意見記入欄></p> <p>今までの会議の中で課題に関わる多くの資料・データが提示されてきたが、改めて課題を整理し意見をまとめるとなると、まだ現状に対する認識が十分でないと感じるところも多いように思われます。特に生物に関わってそうした点が著しいと見えてしまうのは自分の専門に近いためでしょうか。</p> <p>水量・水質：データ上はかなり良好な状況であると評価されています。しかし住民の方々の評価は随分と厳しいものです。<u>大腸菌</u>に関しては提言の中に意見を盛り込む必要があるでしょう。また、水質汚濁防止連絡協議会における議論や取り組みの具体的内容に関して我々はもう少し勉強する必要があると考えます。<u>ダム排水による濁水の長期化</u>についても、具体的な改善の方策(あるのかどうかは専門外なので不明なのですが)を探る必要があるのではないかと考えます。</p> <p>生態系：<u>良好な自然環境の保全</u>に関わっては、直轄区間には関わらずバックグラウンドとしての森林、特に人工林の管理不足に伴う荒廃が大きなポイントになると思います。これをどの様に盛り込むかは難しい点ですが触れざるを得ないと思います。山地崩壊・崩落箇所データの解析とともに、人工林の状況解析を行う必要があるのではないのでしょうか。</p> <p><u>生息生物の保全</u>や<u>ダムによる生息生物への影響</u>、<u>外来魚問題</u>に関しては、データ不足で具体的な意見を述べることは極めて難しいと思います。例えば絶滅危惧種が生息・生育することは記録されていますが、それがどのような生態を持ち、現在どのような状況下にあるのかといった具体的なデータはほとんどありません。従って、保全のための意見や提案を行うことはほとんど不可能です。いいうるとすれば、できるだけ現状を変えないようにということぐらいです。個体数や繁殖生態などに関する基礎的な調査が早急に必要だと考えます。ダム湖に関わっては、先進検討例も相当あるのではないのでしょうか。先行事例・先行研究例を見直し学習することで、熊野川に生かせることもあるようにおもわれますがいかがでしょうか。</p> <p>多自然川づくり：自然はまさに多様・多自然です。それぞれの現場にあった「多自然」のイメージをいかに構築するかが重要だと思います。又継続的なモニタリングによる検証を行ってゆくことが今後の「<u>多自然川づくり</u>」をより良いものとしてゆくために必要であると思います。</p>			

熊野川懇談会

流域の課題に対する意見			
記入者	瀧野 秀二 委員	課題の分野	自然環境
課題	流域の課題		
課題に対する意見			
<p><意見記入欄></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 熊野川の水質について⇒濁水の長期化問題 濁水の長期化が懸念される。 ○ 市田川の水質について ⇒ <u>市田川の水質改善</u> 本川からの導水により、かなり改善されている。下水道の整備が望めないのであれば、市民一人一人が水質浄化に取り組むほか方法は無い。 ○ <u>生態系・生息生物の保全</u> 生息している生物（植物・魚類）の全体像を把握する必要がある。 植物・・・熊野川流域の自然環境そのものを反映 魚類・・・熊野川の水質・河川形態等を反映 植物：流域は熊野地方の固有種や、熊野川周辺を分布の中心とする植物、分布の北限となる植物が生育するなど植物相が極めて豊富な地域である。河川水辺の国勢調査は直轄区間のみであるため、十分とはいえない。 魚類：河川水辺の国勢調査などによって、60 種程の生息が確認されている。ハゼ科の魚類がコイ科の魚類に比べて多いことや、生活型では川と海を行き来する回遊魚の占める割合が高い、などの特徴がある。ただし、捕獲方法の規制が厳しいため（ショッカー、地引網などが使用できない）、特に河口部での魚類相は十分把握できていない。 ○ <u>外来魚問題</u> ダム湖に放流されていたオオクチバスが下流域で確認され、さらに稚魚が捕獲されていることから繁殖していると思われる。オオクチバスは塩分に対する耐性も強いとされ、河口部で繁殖し始めると、魚類の稚魚やテナガエビなどの底生生物を捕食し、魚類相に多大な影響を及ぼすおそれがある。早急に駆除のための対策が必要である。また、ダムから流下させない対策も必要である。 ○ <u>相野谷川の河川整備 ⇒相野谷川の堆積土砂対策</u> 相野谷川では河床に砂泥が大量に堆積し、さらにツルヨシが繁茂して流れが妨げられている状態である。支流的那智川が合流する付近ではワンドが形成され、オオクチバスの稚魚も捕獲された。早急にツルヨシと堆積した砂泥の除去対策が望まれる。 			

熊野川懇談会

流域の課題に対する意見			
記入者	津田 晃 委員	課題の分野	環境
課題	自然・社会環境分野		
課題に対する意見			
<p><意見記入欄></p> <p>1. 自然・社会環境分野全般について</p> <p>熊野川流域は、そのほとんどが森林、林業地帯であり、自然環境に恵まれ、全国的にも先進林業地として発展してきたが、近年は、長引く業界の不況により、経済活動の低迷、過疎化、人工林の荒廃が進み、直接的に河川環境の悪化を招くまでにいたっている。今後の流域の河川整備を考えると、恵まれた自然環境、歴史と文化に育まれた森林、林業地域の活性化を基本的な課題にしてほしい。</p> <p>2. 自然環境</p> <p>① 水量・水質</p> <p>池原、風屋ダムによる<u>濁水の長期化</u>が問題になっており、それぞれ、表面取水装置の設置や早期排出を実施して対策を講じているが、事業者の企業努力だけに頼っている。利水（発電）用ダムとしての役割を法改正も含めて検討できないだろうか。</p> <p>② 生態系</p> <p>瀬切れ問題が生態系及び社会的に及ぼす影響を鑑み、抜本的に維持流量の見直しを検討できないだろうか。</p> <p>3. 地域振興 ⇒ <u>山林保全のための林業地域の活性化</u></p> <p>① リバーツーリズム ⇒川や山を活用した子供対象の集客施設の整備</p> <p>「川で遊ぼう・山で遊ぼう」をテーマに流域全体で、地域の持つ教育力を十分に活かし、子供たちが自然の中で自由な発想で遊べる施設や環境を整備するべきである。</p> <p>② 林業振興</p> <p>流域の人工林も戦後拡大造林が進み、近々、伐期を迎えようとしているが、依然と木材需要が伸び悩み、木材価格の低迷が続いているため、経済活動が低下し、特に間伐の遅れが著しく、また、皆伐地の放置がいたるところに見受けられるようになってきた。流域の人工林は、急峻な地形のため大型の高性能林業機械による搬出コストの削減が困難であったが、近年は、作業道の敷設技術の改良により、徐々にではあるが、高性能林業機械の導入が普及してきた。路網整備、機械化、搬出コストの削減、間伐の促進、間伐材の利用対策は、業界の責務ではあるが、森林の公益的機能を鑑み、国民的理解の下、適切な助成措置、省庁横断的な森林、林業施策を講じてほしい。</p>			

熊野川懇談会

課題に対する意見

<意見記入欄>

③ 歴史遺産

奈良県では、本年度より県独自の森林環境税が徴収され、森林整備等に使用されることになった。初年度となる本年は、古道周辺の荒廃した人工林の間伐を優先的に採択して、事業を実施しているところである。人工林は、適切な撫育（保育）がなされてこそ、公益的な機能が発揮されることは言うまでもなく、適切な撫育がなされた人工林こそが熊野古道の歴史的景観である。流域の歴史、文化、景観を守り、受け継いでいくためには、森林、林業に対する国民的理解を深めるとともに、森林環境税等の特定財源の創設を期待する。

④ 流域ネットワーク

流域の関係市町村、並びに地域住民による広域的な施策の企画、立案組織が作れないだろうか。

熊野川懇談会

流域の課題に対する意見			
作成者	中島 千登世 委員	課題の分野 (○を記入)	環境
課題			
課題に対する意見			
<p><意見記入欄></p> <p>① 河口と砂州</p> <p>河口の右岸は河川敷と堤防が整備完了されて下部に自然石が敷かれてこの位置から見る水面、流れ、水鳥、対岸の景色はとても良くなったが、それを見ようとした人が足を滑らせて怪我をしたと聞いた。告知板に不法投棄と足元に注意と入れてもらえれば尚のこと良いと思われる。</p> <p>この辺りで水上バイクをする人や、サーファーに聞くとところによると、やはりこの水域が臭いといっていました。県下ワースト5位の市田川が河口へ流れているのと、紀州製紙の工場廃水(基準をクリア)砂州の堆積が水の流れを変えて臭いを誘発しているのではと疑問が残る。</p> <p>上流のダムはすべて利水ダムですので近年水量が減少している様に思う。その為沖合いに流出すべき砂利が砂州で止まり、浜痩せ現象を引き起こす一つの要因を作っているのかもしれない。昨年より砂州が大きくなっている様に思えてならないのです。この河口部の右岸に小さな浮遊物が逆方向の上流へ向って流れているのが判った。</p> <p>その反面この時期の早朝に太陽に照らされる時間帯に砂州から王子ヶ浜、御手洗海岸で男女が同じ間隔で釣竿を出している光景は素晴らしく紀勢線から歓声上がる程の感動ものです。釣りマニアにとっても砂州はプラス面もあるのでは。</p> <p>② 市田川 ⇒<u>地域の実情に合う維持管理</u></p> <p>市田川水門の両サイドにある樋門ゲートの下は可燃物、不燃物共のゴミが漂着して打上がっていた。この地点から上流は夏、秋草の雑草が枯れはじめて見苦しく年2回の刈込みを実施していただけたらと思う。やはり県や市に水中にある廃棄物の処理をお願いしても1年以上も放ったままでやる気があるのかその真意を問いたい。</p>			

熊野川懇談会

課題に対する意見

<意見記入欄>

③ 相筋とその周辺⇒自然環境に配慮した河川整備

現在護岸工事が急ピッチで進められている為に、重機等の騒音あり。工事完成と同時に解消されるが新宮の歴史は災害との戦いでもあった筈で、景観より災害に対しより最強の護岸が本来あるべき姿なのかもしれない。コンクリートむき出しの護岸ではなく、自然環境にマッチした工法を取り入れて頂けたらなと思う。（その部分だけ突出しても困る）相筋の奥に雇用促進住宅がありその生活廃水が河原へ直接流しており、とても汚く異臭を放っていた。何とか出来ないものかと思われる。

雇用促進住宅から少し歩いて林の中を下りると「お旅所」がありますが、歴史的な遺産にもなるべきこの場所も道案内の表示もなく残念である。PRをもっとするべきと感じた。

④ 本川左岸

成川の水位観測所下の辺りは非常にきれいであった。ゴミもなくボランティアの方が手を入れているのだと思う。この地点から二つの橋を見ても色が塗りかえられていて美しくなった感じがする。

相野谷川と水門の上流に位置する両岸は下草の刈込みがされた直後で非常にきれいだった。現在は排水所の工事中で完成すれば傍らにある公園も開放されてすっきりすると思う。ゴミが浮いているのが見えた。

⑤ 御幸公園

この公園跡地を利用して新宮祭りの時の総踊りや色々のイベントを開催したら良いと思う。新宮中央通りを祭で使用するより騒音も少なく通行止で市民にも迷惑はかけないと思う。そしてその都度河原屋を建てる方法も良いのでは。でもこの公園を再整地するのは工費もかかり現在のままでいいと考えます。

⑥ 川舟下り

川の参詣道としての川舟下りは3/1～11/30日迄と運休が限定されていますが、水量と水質、降雨量も安定しているこの期間も舟体の工夫次第で運航可能ではと思われる。16kmを90分かけて下るより、現代版川舟下りと称してスピードアップをしては如何かと思う。

熊野川懇談会

流域の課題に対する意見			
作成者	橋本 卓爾 委員	課題の分野	社会環境
課題	地域振興に関する意見・提案		
課題に対する意見			
<p><意見記入欄></p> <p>1. <u>リバーツーリズム</u> ⇒（熊野川の観光資源としての魅力の向上）</p> <p>河川は、国内および海外の事例からも観光資源として有効。また、「河川等の自然資源を活用した体験観光に関するアンケート」（平成15年）等によっても小中学生等の体験学習の場として河川への関心は高い（ex. 利用意向 小学校 67%、中学校 39% ちなみに山林 78%、28%、海洋 6%、50%）</p> <p>熊野川の活用の一つとして熊野川をブラッシュアップして観光資源として活かしていくことが必要。</p> <p>しかし、現状は観光資源として十分活用されていない</p> <p>今後の方向としては</p> <p>①川の「参詣道」、川の「熊野古道」としての位置付けを明確にし、それにふさわしい舟による参詣コースを開発する</p> <p>②川の「参詣道」にふさわしい景観を形成する</p> <p>③小中学生等を主対象にした川を拠点にした体験学習・観光の開発（熊野の歴史・文化や自然学習と結合）</p> <p>④流域にリバーツーリズムの拠点として「川の駅」を設置</p> <p>2. <u>棚田の活用と不耕作地の解消</u></p> <p>流域の水田はほとんど棚田。これが活用されず、放置・放棄されてきている（耕作放棄地の増加）</p> <p>これを放置すると土砂災害の多発、激化を引き起こす（新潟県「地滑り調査」200年→耕作放棄地率が高まるほど地滑り発生危険度高まる）</p> <p>棚田の活用や不耕作地の解消は、高齢化の著しい地元住民だけでは不可能</p> <p>今後の方向としては</p> <p>①流域の出来るところから棚田オーナー制の実施</p> <p>②Iターン、Uターンの活用（共育学舎、熊野塾等）</p> <p>③棚田での古米、そば、麦、ゴマ、菜の花等の栽培→これらを使った弁当、料理（熊野御膳）、パン、お菓子等の開発</p>			

熊野川懇談会

課題に対する意見（つづき）

<意見記入欄>

3. 林業振興

林業をとりまく厳しい状況。しかし、地球環境問題のみならずエネルギー・資源争奪戦（最近木材や食料も）の激化等からみてもわが国の森林と林業を守る意義はますます高まっている

今後の方向としては

- ①林業を環境産業に（木材だけでなく森林の役割・機能や山の宝すべてを活用する）
- ②山村ファンを増やし確保する
- ③「緑の雇用事業」等の拡充

4. 観光産業クラスター ⇒（観光関連産業の連携と核の設置）

流域には多くの観光資源や施設があり、観光関連の業種も少なくない。しかし、これらはバラバラ（個別分散）の状態である。これでは、折角の観光資源や施設が活かされない。

今後の方向としては

- ①観光関連の業種および地域の交流・連携の推進
- ②交流・連携の核としての「熊野川観光ビューロー」（仮称）の設置
- ③観光関連産業が相互に連携し、観光に関する知識、情報、人材等の集積とその結果としての集積利益を享受できる観光産業クラスターの形成

5. 高齢者の活用

流域における高齢化は顕著。これをくい止めることは至難。しかし、高齢化の問題点を数え上げ、深刻ぶるだけでは駄目。高齢者を活かし、次の世代に繋ぐ対策が必要。

今後の方向としては

- ①地域の歴史・文化だけでなく、地域の魅力全体を語る「語り部」等としての活用
- ②地域の生活技術や芸能の体現者としての活用
- ③「川の駅」等で高齢者の生産した野菜や加工品、土産物の販売

熊野川懇談会

課題に対する意見（つづき）

<意見記入欄>

6. 流域ネットワークの形成

現状は流域のネットワークは弱体・希薄。川上・川中・川下の交流・連携および熊野川ファン（流域外部の応援団）の交流が極めて重要

今後の方向として

- ①流域ネットワークの形成
- ②その下準備としての熊野川フォーラムや流域全体を巻き込んだ「熊野川フェスティバル」等の開催

熊野川懇談会

流域の課題に対する意見

作成者	山本 殖生 委員	課題の分野	社会環境
課題	歴史文化(1)		
課題に対する意見			
<p><意見記入欄></p> <p>1. <u>歴史の発掘と活用</u></p> <p>① 熊野川の歴史的変遷の調査</p> <p>悠久の熊野川の歴史的流れを大別すると、次のように分けることが出来ると思う。</p> <p>A 古代～ 熊野神の顕現・交流の舞台</p> <p>B 中世～ “川の参詣道”の大動脈</p> <p>C 近世～ 物流・交易の交通路（海上交通の門戸）</p> <p>D 近代～ 観光・遊覧の集客ルート</p> <p>それぞれの時代の特色を跡づける調査・研究の進展が望まれる。</p> <p>② 熊野川に関する伝承文化の調査</p> <p>日常生活のなかで伝えてきた熊野川の民俗を、次のような項目でまとめていく必要がある。</p> <p>A 流域の生活文化（衣・食・住・家・村社会）</p> <p>B 流域の年中行事（七夕・精霊送り・スズキ追いなど）</p> <p>C 民間信仰（水神・波切不動・禁忌など）</p> <p>D 生業とくらし（川漁労・川舟・筏など）</p> <p>E 民間伝承（庶民の逸話・伝説）</p> <p>以上のような調査を通じて、熊野川の民俗伝承の特色をあぶり出していくことが必要である。</p> <p>③ 「熊野川の歴史と民俗」（仮称）の刊行</p> <p>①②の調査をふまえ、見出しのような報告書を刊行し、今後のよりよい川づくりのための基層文化の把握と理解を求める。</p>			

熊野川懇談会

課 題	歴史文化(2)
課題に対する意見（つづき）	
<p><意見記入欄></p> <p>2. <u>歴史・文化の継承</u></p> <p>① 啓発冊子の発行 熊野川の歴史・文化の魅力をまとめた冊子を発行し、悠久の熊野川の住民理解に資する。</p> <p>② 伝統文化を語る座談会の開催 川舟製作や操作、筏師の技術や伝承、川漁師の漁法など、川で生活してきた人々の体験や知恵を開き、川の民俗伝承の大切さを理解してもらう。</p> <p>③ 語り部の養成 川舟にかぎらず、幅広く川の歴史と民俗を語り継いでいくボランティアを募り、養成講座を行う。特に高校生・中学生・子供の語り部養成も意義深いと思う。</p> <p>④ 熊野川講演会の実施 熊野川の歴史・文化のもつ意義と魅力を発信すべく、定期的に有識者を招き講演会を開く。</p> <p>3. <u>歴史・文化資産の保全と復元</u></p> <p>① 流域交通遺跡の保存と顕彰 世界遺産にふさわしい交通関係遺跡（渡し場、奇岩名所など）を保存し、価値を認識いただけるよう顕彰・PRしていく。</p> <p>② 歴史的交通路の復活 川舟下り航路（田長～新宮川原）を本格的な本宮～新宮間となるよう努力する。また、熊野参詣道の重要な渡し舟（楊枝・乙基・成川）を予約制にでもして、復活させ、往来のにぎわいをとりもどす。</p> <p>③ 川舟・筏・プロペラ船の復元 参詣者と流域の重要な交通手段であった川舟（三反帆）、筏、プロペラ船などの復元を行い、熊野川交通の歴史と意義を考え、技術継承に資する。</p> <p>④ 歴史的交通遺構の復元 川原屋、茶屋などを復元し、往時の交通と接待所の歴史・文化を考える。</p>	

熊野川懇談会

課 題	歴史文化(3)
課題に対する意見（つづき）	
<p><意見記入欄></p> <p>4. <u>歴史・文化にふさわしい川づくり</u></p> <p>① 不用工作物の撤去 旧巴川製紙取水場、旧本州製紙取水口、御船島近くの揚水場など、不用構造物が目につくので、早期撤去の指導を。</p> <p>② 川沿い景観のグレードアップを 川から見上げると、橋や擁壁・堤防などの人工物が景観イメージを低下させている。景観をそこなわないような色彩や目かくし、植栽などの工夫が必要と思う。</p> <p>③ 新規のハード整備への提言 豊かな歴史文化をふまえた世界遺産の川にふさわしい、材質・形状・色彩・伝統的な施工技術を尊重した工事であってほしい。コストや強度など技術的な問題もあると思うが。</p> <p>④ 流域の自然林の復活 日本一の流量を誇る熊野川ながら、豊かな自然林が美しい清水を育ててきた。その自然景観に支えられて、人々は長い歴史の中で「神々の風景」ともいえる見事な文化的景観を生成してきたのである。少なくとも世界遺産にはじない川沿いの自然林の再生が望まれる。</p>	

熊野川懇談会

流域の課題に対する意見			
作成者	清岡 幸子 委員	課題の分野	環境
課題			
課題の提案			
<p>⇒ 排水対策</p> <p>熊野川の水質について先日も驚いたのですが、大腸菌が多いとの事について、下流域に生活する私達がまず気を付けなければいけないと思いました。</p> <p>上流の方達が下流の事を考えて下さっているのに、私達が生活污水や濁水を平気で流す様な事をしている、反省あるのみならず、住民にことごとく広めなければと思いました。</p>			

熊野川懇談会

流域の課題に対する意見

記入者	古田 皓 委員	課題の分野	環境
課題	地域振興		

課題に対する意見

<意見記入欄>

1. 熊野川の舟運の再生による観光産業の振興

世界遺産の熊野川、観光を中心とする産業振興につなぐ。

理由：

民間活力を導入して土砂採取を進める事業で、河床の安定を図り、流量を確保することで、例えば大斎原からの川舟下りや熊野速玉大社からの奥瀬就航など、観光産業の振興を進めていく必要があるのではないか。古道としての熊野川を再生するという目的で、河床掘削を進めるならば後世にさらに大きな資産が残せることになる。

具体的には許認可権を環境整備の大きな楯に、きめ細かい計画を地元住民や和歌山県、市町村や電源開発と連携を取りながら進めることなどが、治水上の情報化をさらに進展させ、流域住民の熊野川に関心を寄せ、親しんでいく大きなモチベーションとなるのではないだろうか。

熊野川懇談会

流域の課題に対する意見			
作成者	吉野 隆治 委員	課題の分野	環境
課 題	環境全般への意見		
課題に対する意見			
<p><意見記入欄></p> <p>○水量・水質 〔熊野川の水質の問題点〕⇒<u>流域における家庭排水処理の推進</u></p> <p>水質問題としては、川遊びおよびイメージの点から、大腸菌を減少させることが望ましく、流域における家庭排水処理を推進することが望まれる。</p> <p>○流砂と河川形状（河床変動）</p> <p>河川整備計画に含まれるか不明ですが、七里御浜の侵食の主な原因は鵜殿漁港の堤防等の施設であると見られる。</p> <p>○地域振興 〔<u>林業振興</u>（再生）〕</p> <p>土砂のダム湖への流入防止に特に効果ある事業については、河川、ダム側が資金面等で支援することが望ましい。</p> <p>○観光産業クラスター</p> <p>広域観光開発を目的にしつつ、地区ごとに住民グループを結成し、地区ごとの伝統文化、伝統食品、伝承、演芸等を発掘、保存、さらには改良して紹介できるようにすることが望まれる。</p> <p>上記の地区毎の住民グループを核にネットワークを組織し、広域連携を進めるとともに、その機能の特産品開発、販売等地域振興にも広げることが望ましい。</p> <p>中下流全域を統合した観光コースを連携して設定し、紹介することが望ましい。例えば、次のようなタイプが考えられる：①様々な川の利用方法 ②様々なタイプの温泉の楽しみ方 ③様々な熊野古道の歩き方 ④様々な熊野の宗教的文化を学ぶ 等</p> <p>○河川敷の親水整備</p> <p>広大な川原が存在しているが、自然保全の重要性の低い地区において、住民のためおよび観光のため自然公園、水遊び・リクレーション・スポーツ広場、イベント広場等を大規模に設置することが考えられる。 上流にダムがあるので、浸水被害も少なく済むのではないかな？</p>			

熊野川懇談会

課題に対する意見（つづき）

<意見記入欄>

○歴史文化 〔歴史・文化資産の保全と復元〕

歴史文化資料館を建設し、旧神宮、川原まち、プロペラ船、材木流し技術等の精緻な模型を展示し、それを用いて、その機能、歴史、当時の生活、エピソード等を学芸員等が説明する体制を整えることが望ましい。

○景観 〔人工的な景観のあり方〕

川沿いの人工施設が景観を損ねている。景観にマッチするよう措置が必要である。（特に、長大な擁壁が目立っていた）

○景観 〔ダムの景観のあり方〕

池原ダム背面を投射スクリーン、反響板等に活用か可能ではないか？